



TOBAゼロカーボン・チャレンジ2050

鳥羽市は、全域が伊勢志摩国立公園の区域にあり、4つの有人離島と志摩半島の北東部からなる自然豊かな観光都市です。また、世界で初めて真珠養殖に成功した地であるとともに、日本一海女の多い地であるなど、これまで恵み豊かな環境の恩恵を受けて生活を営んできました。

しかし、近年は海水温の上昇による台風発生状況の変化、集中豪雨、猛暑等の気候変動による被害が増えてきているとともに、鳥羽の海でも藻場の減少など環境が変化してきており、生態系に深刻な影響が出始めています。その大きな要因が地球温暖化に伴う気候変動と言われています。

本市では、これまで二酸化炭素排出量削減対策として、鳥羽市リサイクルパークを中心とした廃棄物の減量・資源化に取り組むとともに、再生可能エネルギーについては、公共施設への導入はもとより、2018年に「鳥羽市における再生可能エネルギー発電事業と自然環境等の保全との調和に関する条例」を制定し、適正な再生可能エネルギー発電の導入に努めてきました。

このまま地球温暖化が進むとその影響はさらに深刻化し、この恵み豊かな鳥羽の環境にも危機が迫ってきます。本市としましても、これまで実践してきた廃棄物の減量・資源化をさらに徹底するとともに、自然環境や景観及び産業に十分配慮しながら、洋上風力を含め、地域のポテンシャルを活かしたエネルギーの研究を進めるなど、未来を見据えた地産エネルギーの活用にも取り組んでいきます。

また、二酸化炭素吸収対策としては、森林による「グリーンカーボン」はもとより、豊かな海に囲まれた本市の特性を踏まえ、「海のシリコンバレー構想(鳥羽市及びその周辺に集積する海に関する研究・教育機関の連携)」を軸として、藻場・浅場等の海洋生態系における「ブルーカーボン」への取組を進めていきます。

上記以外にも、市民挙げて従来の発想にとらわれない積極的な対策を行いながら、環境と経済を両立させた取組を推進します。

恵み豊かな鳥羽の環境を次世代に引き継いでいくために、私たち市民一人ひとりが今まで以上に地球環境に強い危機感を持ち、脱炭素への取組を強化していくことが重要です。本市は「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)」を目指し、市民・事業者・行政の「オールとば」で脱炭素社会の実現に向けて全力でチャレンジすることをここに宣言します。

令和4年12月22日

鳥羽市長

中村欣一郎

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS